

「共励の夕べ」

阿部 昭子

聖書：「こういうわけで、兄弟たち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます。自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です。」(ローマ 12：1)

8月23日午後7時、音楽主任の本田満智子姉による心にひびく前奏で始まった「共励の夕べ」。今回は、前会長の高塚勝先生や理事長の米倉安雄兄がおられず、さびしい限りでしたが、すべてのプログラムの上に主の豊かな御祝福とお導きがあったことを、今、改めて思い起こし、感謝の念に満たされております。

登壇した司会者(阿部)が、ローマの信徒への手紙12章1節(Christian Endeavor Verse)を読んだあと、感謝の祈りの中で、「この集いのことをお心にかけておられながら、ご病気のためなどでご参加できなかった米倉兄や高塚先生ほか皆様の上にも、癒しの御手、支えの御手をさしのべて下さいますように」と、祈らせていただきました。

いつものように、「キリストと教会のために」を声高らかに斉唱し、続いて共励会誓約カードの条文を全員で朗読。そのあと、主事の加藤勇三兄(日本CE常務理事)が、ハンガリーでのCE世界大会について、報告をして下さいました。

続く「讚美とあかし」では、最初に、文学座の俳優で日本基督教団三軒茶屋教会会員でもある角野章子姉が、よく通る美しい声で、アンデルセン童話の「天使」を語って下さいました。参加者一同はその心にしみる温かい語り口にすっかり引き込まれ、心洗われるひとときを過ごすことができたのでした。

次に、日本聖書神学校4年に在籍中で、8年間ミュージシャンとして活動してこられたシンガーソングライターの陣内大蔵兄(日本基督教団宇部教会会員)が、幼児から現在までの生活に関わる「あかし」と「アメイジング・グレイス」の独唱をして下さり、一同心から感動いたしました。

続いて陣内大蔵兄のキーボード伴奏で、讚美歌21の520番(真実に清く生きたい)と508番(救い主イエスこそは)を全員で合唱し、さらに民族楽器ほか幾つかの打楽器を用いて合唱を繰り返すなど、大いに盛り上がったのでした。

そのあと、鳥取県出身の熱心なキリスト者岡野貞一作曲の「ふるさと」を合唱し、続いて讚美歌280番(わが身ののぞみは)を歌いました。

そして、加藤主事から「共励カード」について解説がなされ、CEジョイント・キャンプに初めて参加された7人の方々に1枚ずつ渡されました。

最後に、日本連合CE会長の陣内厚生先生が、力強いご挨拶と祈禱をして下さり、本田姉の奏でる美しい後奏をもって、「共励の夕べ」は静かに幕を閉じたのでした。

(あべ・あきこ 日本基督教団沼田教会会員 日本CE理事)